

雲南

大型風力発電建設中止を

党雲南市委が石飛市長に申し入れ

雲南市と安来市にまたがる大出日山（おおしびさん）付近に計画されている大規模風力発電施設建設（風車を最大13基、



最大出力4万6200キロワット）について、日本共産党雲南市委員会（上代和美委員長・雲南市議）と党大東支部（内田勉支部長）は13日、石飛厚志市長に対し、市民の声を尊重して設置反対の意思表示をするよう申し入れました。（写真）

申し入れ書では、自然環境破壊による土砂災害リスク▽水資源保全の懸念▽特別天然記念物・コウノトリやホタルなど動植物の生存や生育への



危険などを指摘。参加した市民は「雲南市の棚田や農村風景が素晴らしいので移住した。大量の木を切られると水害や住民生活が脅かされる」「自然環境の破壊は目に見えてい

る」と訴えました。石飛市長は「懸念や心配、不安な点を事業者に伝え、今は返答を待つ段階。根拠を持って判断したい」と述べるに留まりました。

風力発電事業はジャパン・リニューアブル・エナジー（東京都）が計画し、安来市の日向山（ひなやま）付近に最大11基（同4万2千キロワット）を建設する計画も進めています。安来市の田中武夫市長

中国各県 共産党が一斉宣伝
松江 むらほ氏、党県議団、市議団が訴え

日本共産党中国ブロックのいつせい宣伝が21日にあり、松江市では、むらほえりこ衆院島根1区予定候補、尾村利成、大國陽介の両県議、舟木健治、橋ふみ両市議、岩田剛東部地区委員長が商店街前で宣伝しました。（写真）

むらほ氏は、国民が大反対でも来年秋の健康保険証の廃止、マイナンバーカードの一体化を止めようとし、岸田政権を批判。「総選挙は政治を変えるチャンスです。アメリカ言いなり、財界中心の古い政治ではなく、新しい政治をつくらう」と呼びかけました。

党島根県委員会Facebook、Twitterのフォローを

日本共産党島根県委員会は、Facebook ページと Twitter を開設しています。島根県委員会からのお知らせや県内の地方議員の活動などをアップしています。スマホで下記のQRコードを読み込んで、ぜひフォローしてください。

島根県委員会 Facebook ページ →  島根県委員会 Twitter → 

中国ブロック比例候補 大平よしのぶ 元衆院議員 「LINE公式」

あなたもぜひ登録を!

要求実現のとりくみ、活動などをお知らせします

「LINE公式」登録の方法

①LINE アプリのアイコンを長押しします



これを長押し

②「QRコードリーダー」を選択するとカメラが起動

ここをタッチするとカメラが起動

③カメラをQRコードにかざすと以下の画面。「追加」をタッチして登録完了



「追加」をタッチで

完了

大平よしのぶ 元衆院議員 (中国ブロック比例) 「LINE公式」QRコード

大平よしのぶ

LINE公式

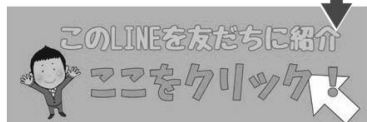
ともだち募集中!!



日本共産党

友だちに広げよう

①それぞれ登録した「LINE公式」のトーク画面から「LINE友だちに紹介する」をタッチ



②広げたい友だちを選んで転送します

※①が表示されていない場合は「メニュー」または「+」を押して友だちを選択して転送します。

日本共産党国会議員団 中国ブロック後援会ニュース 2023年号外 7703-8288 岡山市中区赤坂本町1-31 日本共産党国会議員団中国ブロック事務所 E-mail/jp-chu@mx36.tkline.jp 大平よしのぶ元衆院議員の活動、日本共産党の見解を紹介します。

地域の話題

【出雲】ゼロゼロ融資別枠に川西議員質す

川西議員は「やむなく借りた過剰な債務が大きな問題となっている。コロナ対応融資、ゼロゼロ融資を別枠債務にして、新規融資が受けられるようにし、債務の減免を含めた中小企業・事業再生スキーム（枠組み）をより小規模な事業者にもできるよう、国、県に求めるべき」と質すと、糸原保町長は「コロナ資金を創設し、減収の影響を受けた中小企業に融資支援を行っている。本町は延べ180件、24億3420万円

の融資が実行されている」「償還期間は20年。据置期間は選択制で最大5年。本年7月から本格的に返済が始まる。国や県と連携を図りながら、今後も事業者への支援をしたい」と答えました。（「出雲町民報」より）

【出雲】「高齢者聴力検査」請願 共産党以外反対

聴力検査は退職後、人間ドック等を受診するほか、検査する機会がありません。難聴が加齢のせいかどうか、安心して無料で行えるようにしてほしいという請願（提出者＝出雲医療生活協同組合 象谷幸正理事長）について、日本共産党は採択を求めましたが、他のすべての議員が不採択にしまいました。

アムロム

【江津】乗合タクシー導入を森川議員が要望

森川議員「市内で新たな交通空白地域が拡大しており、いつでもどこでも、誰でも気軽に利用できる地域交通網の整備が急がれる。「市民と語る会」でも「免許返納し、通院・買い物でタクシーを利用すると大金がかかる」との声があつたが、乗合タクシーの導入を提案する。

地域振興課長「乗合タクシー導入は検討しておらず、引き続き生活バス運賃半額助成制度を継続する。しかし、対応が必要であり、今後、庁内関係課や関係各機関での検討を本格化させていく。（「こうつ民報」より）